

2024年アルミ業界重大ニュース

2024年12月26日

項目	コメント
①環境配慮型のアルミ缶蓋（従来比、GHG排出量4割減）が採用	(株)UACJと東洋製罐(株)が共同開発したリサイクルアルミの使用率を高めた飲料用缶の蓋（従来比、GHG排出量4割減）が、アサヒビール、キリンビール、サッポロビール、サントリーの4社に採用され、環境負荷の低減に貢献となっている。
②世界初のオールリサイクルアルミボトル缶が開発	ボディとキャップの両方をユニアロイ化（同一合金化）したアルミボトルが開発（アルテミラ(株)、MAアルミニウム(株)等）。オールリサイクルアルミボトルの製造が可能となり、国内飲料メーカーに採用。
③資源循環プロジェクト、中間目標を達成、実用化に向け着実に進む	アルミ協会が参画しているNEDOの「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」について、5年間の基礎研究の前半の3年間を終えほぼ中間目標を達成。後半2年間の取り組みも承認されスタートした。9月には長尺の実験が可能となる縦型高速双ロール鋳造実験機が設置され、社会実装に向けたデータ採取が可能となった。量産化を目指した鋳造技術として世界初の取り組みとなる。
④東海道新幹線車両のアルミスクラップ、建材として初めて採用	JR東海グループと三協立山(株)は、東海道新幹線車両のアルミスクラップをリサイクルした建材を共同開発、サッシとして採用された。これまで、「新幹線から新幹線へ」「車体から車体へ」の事例はあったが、「車両から建材へ」は初めての事例となる。
⑤アルミスクラップの輸出統計品目番号（HSコード）が細分化	アルミスクラップに関する新たな輸出統計品目番号（HSコード）が追加され（10月31日官報公示）、2025年1月1日より適用。これまでの「アルミ缶」、「その他」の2分類に、「サッシ」と「切削・打ち抜きくず」が追加され、4分類となる。
⑥英国、アルミニウムを重要鉱物に指定	英国はアルミニウムを重要鉱物（critical minerals）に指定。EU、米国、カナダ、豪州、韓国において、既にアルミニウムは重要鉱物に指定されているが、今年、英国も重要鉱物に。G7諸国でアルミニウムを重要鉱物としていない国は、日本のみに。
⑦アルミカップのリサイクルマーク制定	6月、アルミ缶リサイクル協会は、アルミカップのリサイクル推進を目的に「アルミカップリサイクルマーク」を業界統一マークとして新たに制定。これにより、アルミカップがアルミ缶と同じルートで回収・リサイクルできることとなる。
⑧アルミナ価格、過去最高を記録	アルミナの原料となるボーキサイトの供給懸念により、アルミナ価格は10月29日時点で715ドルとなり、データを遡れる2010年8月以降で過去最高を記録した。
⑨アルミ協会、サーキュラーパートナーシップEXPOに出展	12月、アルミ協会は、アルミニウムの特性やサーキュラーエコノミー委員会の活動を広く周知することを目的として、第1回「サーキュラーパートナーシップEXPO」に出展。EXPO出展者プレゼンテーションステージでは、「脱炭素社会の実現に向けたアルミニウム資源循環について」と題し、成田緑氏（日本アルミニウム協会 サークュラーエコノミー委員会 委員長）が講演、多くの聴講があった。
⑩低温型電解法によるハイアップグレードリサイクル、NEDOの先導プログラムに採択	8月、(株)UACJ、日本軽金属(株)、北海道大学、岩手大学、千葉大学、京都大学は、低純度スクラップから高純度アルミニウムへの新規リサイクル手法の実用化に向けた研究開発について、NEDOの先導プログラムに採択。これまで廃棄されていた低純度スクラップなどを、新地金相当の純度または電子材料や航空宇宙材料などに使用される高純度アルミニウムにアップグレードリサイクルするもので、150°C以下の低温下で、固体のスクラップから固体のまま高純度アルミニウムを精製する「低温型電解法」を使用する。